

ワードによる文書の作成(3)

知っておくと便利なテクニック

正方形の描画

四角形を描画する際に「Shift」を押しているとき、正方形が描画できる。円の場合は真円となり、直線の場合は傾きが15度単位で調整できる。

また、図形の移動・変形時に「Shift」を押すと、移動方向が垂直・水平方向のみに制限される。

図形等の位置の微調整

「図形の調整」→「グリッド線」をクリックして現れた窓で「描画オブジェクトをグリッド線に合わせる」にチェックが入っている場合、図形の描画や移動はグリッド線の間隔で行われる。

チェックをいれたままでグリッド線による制約を一時的に解除したい場合は、「ALT」を押しながらマウスの操作をおこなうとよい。（「...グリッド線に合わせる」にチェックが入っていない場合は、一時的にグリッド線に合わせる操作となる）。

図形の複製

「Ctrl」を押しながらマウスでドラッグを行うと、元の図形を残したまま、新たな図形を生成しそれを移動させる状態になる。
（文字やファイルに対しても同様）

もちろん、上記の「Shift」、「Alt」、「Ctrl」は組み合わせて利用できる。

文字の読みの確認（再変換）

一度ひらがなから変換を行った漢字を再変換することができる。再変換したい漢字をマウスで選択し、右クリックして現れるメニューで再変換を選択する。他の文書（ブラウザ等）からコピーしてきた、元々ひらがなでなかった漢字の再変換も可能なので、読みのわからない文字を調べるのにも利用できる。

ルビの入力

文書でルビを表現する方法は何通りか存在する。

- 2行利用する方法（1）

1行目にするびにしたい文字を入力し選択しておいて、フォントサイズを小さくする。

- 2行利用する方法（2）

1行目にするびにしたい文字を入力し選択しておいて、「書式」→「フォント」で現れる窓で「下付き」に変更する。

- 1行で実現する方法（文章中はこれが良い）

るびを振りたい文字を選択し、「書式」→「拡張書式」→「ルビ」を選択する。現れた窓で必要な設定を行う。

書式のコピー

文字のコピー(Ctrl+C)や張付け(Ctrl+V)については以前紹介したが、文字の持つ書式のみをコピーするキー操作もあるので、覚えておくと便利だろう（一度設定した書式を、他の文字にも適用したい時など）。

- 書式のコピー： Shift+Ctrl+C
- 書式の張付け： Shift+Ctrl+V

数式の入力

文書中で数式を入力するには、次の機能を用いる方法がある。

- 数式エディタ
- 数式フィールド

数式エディタはより複雑な数式を比較的簡単に入力するためのツールであるが、オプション機能なので、標準的なインストールが行われていると利用できないことがある。また、文章中に数式を記述したい場合は数式フィールドの方が向いている。

ここでは、数式フィールドの使い方を見ておくことにする。

基本操作は次の2つである。

- Ctrl-F9：数式フィールドの作成
数式を入力したいところにカーソルを移動させてから操作する。
- Alt-F9：数式フィールドの編集開始・終了

数式フィールドは、罫線で作成した表の中で計算を行う時にも利用されていたが、ここでは、数式フィールドのもうひとつの使い方を利用する（EQ ではじめる）。

{EQ 分数 = \f(分子,分母)}

数式フィールドの中で数式特有の表現を指示するには、このように¥で始まる制御文字列を記述する。

制御文字列には次のようなものがある（他にいろいろあるので各自で調べてみることに）。

- 分数：\f(分子,分母)

例：{EQ 平均 = \f(合計,個数)}

- 根号：\r(3,x)
- かつこで囲む：\b(中身)
 - \lc[：左かつこを[にする
 - \rc]：右かつこを]にする一方のみを指定したら反対側のかつこは省略される

例：{EQ \b \lc \{ \rc \} (かつこのなかみ)}

このかつこは、配列などと組み合わせることで効果を発揮する。

例： $\{EQ \backslash b \backslash c \backslash { (\backslash a(\text{選択肢 1}, \text{選択肢2}, \text{選択肢3}))}\}$

- 2次元配列表現： $\backslash a(A,B,C)$
 - 列数： $\backslash co$ 列数
 - 配列表現の中の位置合わせ
 - $\backslash al$ ：左揃え
 - $\backslash ac$ ：中央揃え
 - $\backslash ar$ ：右揃え

例： $\{EQ \backslash a \backslash al \backslash co2(A1,B23,C456,D7890)\}$

- 文字の重ね： $\backslash o(\text{文字列 1}, \text{文字列 2})$

例： $\{EQ \backslash o(/,0)\}$

- 上付き文字： $\backslash s\up$ サイズ(上つき)
- 下付き文字： $\backslash s\down$ サイズ(下つき)

例： $\{EQ x\backslash s\up3(2)\}$

ネチケット等について

電子メールや WWW は、従来の郵便や電話などと同様、人と人がコミュニケーションをするためのツールなのですが、従来の郵便や電話などと異なる点の1つに、より多くの人の目に触れる可能性がある、ということがあります。

従って、メールや WWW を利用して他の人にメッセージを送る際には、そのメッセージが読まれる際のあらゆる状況を想定し、誤解等が生じないように気を遣うことが、コミュニケーションを円滑に進めるために必要になります。

インターネットを検索すると、これまでに様々なトラブルが起こっていることを知ることができると思いますが、そういったトラブルを起こさないようにするための基本的なネットワーク利用上のエチケット（ネチケット）についてまとめられているホームページもたくさん見つかるので、どのような心がけが必要なのかを各自で調べ、それらを意識しながらメールや WWW を利用していきましょう。

参考キーワード：ネチケット、マナー、フレーム（Webブラウザのフレームとは別）、スパム（SPAM）、チェーンメール、プライバシー、など